

第 19 回入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和 8 年 7 月 3 1 日（金）本部 1 号館第 2 会議室	
委員	委員長 加藤 倫子（弁護士） 委員 山田 順（公認会計士） 委員 笠野 寿治（不動産鑑定士） 委員 西田 裕（東海国立大学機構監事）	
審議対象期間	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日	
抽出案件（合計）	27 件	（備考）
工事（小計）	20 件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼は無し。 <抽出案件> 名古屋大学 6 件 岐阜大学 3 件 静岡大学 3 件 浜松医科大学 3 件 三重大学 3 件 豊橋技術科学大学 3 件 愛知教育大学 3 件 名古屋工業大学 3 件 合計 27 件
一般競争入札（政府調達に関する協定対象工事）	件	
一般競争入札（上記を除く）	20 件	
工事希望型競争入札	0 件	
通常指名競争入札	0 件	
随意契約	0 件	
設計・コンサルティング業務（小計）	7 件	
公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式	0 件	
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	3 件	
標準型プロポーザル方式	0 件	
一般競争入札	4 件	
随意契約	0 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別紙

議事の進行及び委員からの質問	回 答
1. 工事及び設計・コンサルティング業務の審議対象案件の抽出方法について (担当委員より抽出方法について説明)	・今年度の審議対象案件の抽出については、各大学から提出された発注一覧表に掲載された契約のうち、予定価格が随意契約基準額を上回るものを原則として抽出対象とし、担当委員による選定を踏まえ、担当事務との打合せにより決定した。
2. 各大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務及び審議対象案件について (担当委員より資料に基づき説明)	・審議対象案件の抽出と併せて担当委員より説明した。
3. 指名停止等の措置状況について (委員長より結果の報告)	・該当があり、資料6に基づき、報告を行った。
4. 再苦情処理会議への申立状況について (委員長より結果の報告) ・特になし	
5. 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続について (担当事務より前年度から変更がない旨説明)	
6. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 (各大学担当者より資料に基づき説明)	
①名古屋大学（東海国立大学機構） (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） ・競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。 【名古屋大学(東山)法・経本館共用館空調設備改修工事】 ・備考欄に「会社倒産につき不履行」と記載されているが、本件契約時の経営事項審査や財務評価において、当該企業の経営状況の兆候を把握することができていたのか、ご説明いただきたい。また、不履	
・求める工事实績の要件や競争参加資格に係る等級区分を緩和するなど、競争参加資格要件の見直しを行うとともに、できる限り工期を確保できるよう早期に入札手続きを実施することで、応札者の増加に努めている。 また、近年は技術者不足により応札が困難な状況が生じていることから、同一敷地内の工事を一体の工事として取り扱い、技術者の兼任を認めることで、応札しやすい環境の整備に努めている。 ・入札時や契約時の提出書類に経営事項審査や財務評価に関する書類の提出は義務付けられてはおらず、財務評価がされている省庁の等級の格付けにおいても、通常通り格付けがされてい	

行後の再発注または措置の状況について、ご説明いただきたい。

- ・ 本件の契約不履行により、大学に損害は生じなかったか。

【名古屋大学(犬山)観測所とりこわしその他工事】

- ・ 他大学の同種解体工事（おおむね 60%台）と比較しても落札率が 35.53%と極めて低い理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。

- ・ 低入札価格調査資料において、受注者の下請として参画予定の企業が受注者の以前の協力会社から独立した新規設立企業であることが記載されているが、両者の関係はどのようなものか。

【名古屋大学(東郷)総合研究棟(農学系)新営その他工事】

- ・ 1 者入札で不落見積回数が 2 回に及んだ理由について、ご説明いただきたい。

【名古屋大学(東山)野依記念物質科学研究館変圧器取替工事】

- ・ 取替前の設置工事が今回とは異なる業者により施工されていることを踏まえ、1 者入札かつ落札率が 64.60%となった理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。

た。なお報道等によると、経理責任者による資金横領が倒産原因となっており、仮にそのような書類が提出されていたとしても倒産を事前に察知することは困難であった。

不履行確定後の対応として、業務上先行させる必要があった一部について随意契約にて発注を行うと共に、残る部分についても直ちに一般競争入札を行い、契約を締結した。

- ・ 工事開始前の契約不履行であり、業務上先行させる必要があった一部については随意契約により、残る部分についても直ちに一般競争入札を行って次の契約を締結したため、実損はなかった。なお、受注者の契約不履行に備え、契約金額の 10%に相当する契約保証を保証会社から確保する仕組みとなっており、今回の契約不履行に伴い、保証会社から保証金を受領した。

- ・ 予定価格は現場の立地や施工の難易度を加味して算出しているが、受注者は設計図書から解体建物の構造・規模等を確認し、過去の実績や同種の事例から一般的な解体単価で金額を積算していたため、予定価格との乖離が大きくなり、結果として落札率が低くなった。低入札価格調査は、入札説明書別紙に基づき、その価格により入札した理由、手持ち工事の状況、手持ち資機材の状況、経営内容等について調査を行った。

- ・ 受注者と下請業者は横並びの関係である。下請業者は新規設立企業であるため経費率が低く、低価格でも合理的に施工可能と判断した。

- ・ 不落随意契約では予定価格に達するよう見積もりを繰り返している。1 回目の入札額が予定価格を超過しており、業者側が値下げ幅を調整した結果、見積回数が複数回に及んだ。

- ・ 本工事は既設変圧器の取替えを主な内容とする工事であり、入札においては当初の施工業者ではなく、既設機器メーカーが価格形成上の重要な要素であると考えている。1 者入札に関しては、当該案件の状況を踏まえた結果と判断している。

	落札率が低い理由については、本学が過去の実績に基づく査定率を機器価格に乗じて積算しているが、施工者はそれより低い掛率で機器を調達したものと推察している。
(2) 設計・コンサルティング業務 一般競争入札方式 【名古屋大学(東山)未来材料実験研究施設(仮称)新営設計業務】 ・ 6社入札で競争性が確保されている一方、落札率が約 49.50%と低水準である。低入札調査基準価格に該当しないものの、結果として業務品質が確保できたかご説明いただきたい。また、予定価格の算出方法について、ご説明いただきたい。 【名古屋大学(東山)基幹・環境整備(電気設備Ⅲ期)設計業務】 ・ 1者入札で落札率が 36.32%と極めて低い理由について、ご説明いただきたい。	・ 本施設は実験装置を設置し、観測することを目的とした簡易な建屋であり、創意工夫の余地がなかったため、落札率は低かったものの業務の品質は確保することができた。 予定価格は、「官庁施設の設計業務等積算基準」及び「官庁施設の設計業務等積算要領」に基づき、新築工事の設計業務を委託する場合に用いる「床面積に基づく算定方法」により算出している。 ・ 1者入札に関しては、当該案件の状況を踏まえた結果と判断している。 落札率が低い理由については、落札者は少数精鋭の体制により直接人件費を抑制していることに加え、事務所が施工場所と同市内に所在することから、諸経費も低減できたものと考えている。
②岐阜大学 (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） ・ 競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。	・ 以下の5点の取り組みを実施している。 ①発注見通しにおける公表 文部科学省契約情報室のホームページにおいて、適宜、発注見通しを公表している。可能な限り、早めに公表するよう努めている。 ②電話による紹介 これまで本学と取引のある複数の業者に、現在公告中の案件について電話等で声をかけている。 ③参加条件の設定 当該等級の資格を有する者の競争参加が僅少であると考えられる案件については、当該資格の等級の1級上位や2級上位、1級下位等の資格の等級に格付けされた業者も参加できるように参加条件を設定することで、多くの業者が参加可能となるようにしている。 ④施工実績の緩和 建物用途や階数、施工面積など、求める施工実

	績を緩和することで、幅広い業者が参加しやすくなるよう工夫している。 ⑤スケジュール調整 出来るだけ工期・納期に余裕を持たせ、繁忙期を避けて発注している。
【岐阜大学（柳戸）地域科学部・共通教育棟（D・E棟）改修電気設備工事】 ・3者による競争入札にもかかわらず、落札率が99.92%と高い理由について、ご説明いただきたい。 ・競争参加資格を確認するためのプロセスはどのようなものか。	・予定価格の算出にあたっては、国土交通省公共工事積算要領及び文部科学省の積算要領に基づき、市場調査、見積り徴収を行い、積算している。今回、予定価格が税抜きで24,020,000円となっており、3者から入札があったが、結果を見ると、他の2社は予定価格を超過している。このことから、市場に即した積算ができていると考えられるため、特段の問題は見受けられないと判断している。 ・東海国立大学機構において、競争参加資格審査委員会があり、名古屋大学、岐阜大学の施設統括部の関係者が委員となり、審査を実施している。
【岐阜大学（柳戸）医学部看護学科校舎（東棟）外部改修工事】 ・外部改修は本来安価に施工できない工種であるが、7者全社が低入札となり、落札率が53.45%と低水準となっている理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。	・本工事は外壁と屋上防水の改修工事であり工種が少ないため、業者間での競争が発生したことが安価に入札された要因と考えられる。各防水改修工事が予定価格の約58%、共通費も約19%と、それぞれ競争の中でコスト削減されている。また、落札業者は自社施工で外部発注を行っていないこと、元請業者が防水・外壁の専門業者であり資材購入や協力会社との協力体制が整っていること、近隣で施工中の工事と併せて資材を購入できることから、安価に施工できたものである。
（2）設計・コンサルティング業務 簡易公募型プロポーザル方式（拡大） 【岐阜大学（柳戸）教育学部校舎（A棟）Ⅲ期改修設計業務（建築）】 ・見積もり合わせが4回に及んだ理由について、ご説明いただきたい。 ・提案書の評価点数の付け方、点数差について、どのようにになっているか。	・プロポーザル方式では業者特定後に随意契約での見積もり合わせとなるため回数制限がなく、業者が少しずつ金額を削って提出してくることが多い傾向がある。 ・評価基準の配分は文科省基準に基づき、東海国立大学機構内の建設コンサルタント選定委員会がそれに準じて決定している。今回、点数差がついたのは「工程計画及び配置技術者計画の妥当性」の項目であり、A社がB評価、B社がA評価となった。

③静岡大学	
(1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） ・競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。	・工事発注見通しの早期公開に努めるとともに、施工実績などの参加資格条件は、工事会社のヒアリング結果を参考に設定している。また、入札公示後、申請数が少ない場合、参加の可能性が工事業者へ電話等で知らせ、参加者数の拡大に努めている。
【静岡大学（大谷）体育館屋根防水改修工事】 ・3者による競争入札にもかかわらず、落札率が99.98%と高い理由について、ご説明いただきたい。	・数か月で物価が上昇する状況のため、見積書を徴取して実勢価格を反映させていることにより、落札価格が予定価格に近くなったと考えられる。
【静岡大学（大谷）教育学部B棟講義室照明設備改修工事】 ・4者競争の結果として落札率が56.17%と低水準となったと推測されるが、低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。 ・LEDへの改修工事は今後も続くと考えられるがどうか。 ・LEDのリース契約は入札監視委員会の審議対象となるか。	・直接工事費、共通仮設費、現場管理費、一般管理費共に満遍なく低くなっており、企業努力により低い落札率になったと考えている。 ・調達手続きによりリース契約を締結して機器更新を行っている。 ・入札方法は物品の手続きに則って建設工事とは異なるルールで実施している。
(2) 設計・コンサルティング業務 簡易公募型プロポーザル方式（拡大） 【静岡大学（大谷）共通教育C棟改修設計業務】 ・予定価格が1回目の見積金額の半分以下となったことは、予定価格が低すぎたためではないか。 ・予定価格は適正に積算されたとのことだが、予定価格と1回目の見積金額に大きな差があることは見積業者が無理をして契約したとも考えられるので、次回以降の予定価格を算出する際は積算根拠を一度見直してほしい。	・近年の面積当たりの設計費等で積算しており、適正な予定価格を設定できたと考えている。 ・業者にヒアリングしながら次回に反映させたい。
④浜松医科大学	
(1) 建設工事	

一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）

・競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。

【浜松医科大学医学部附属病院外来棟3階照明設備改修工事】

・実績評価型は落札率が高く出る傾向があるが、落札率が55.89%と低い理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。

・他大学に共通してLED化（照明設備改修）工事の落札率が概ね60%を切っている傾向が見受けられるので、今後予定価格を積算する際は工夫したほうがよいのではないかと。

【浜松医科大学エネルギーセンター冷凍機室建具更新等工事】

・更新前の建具工事が今回とは異なる業者により施工されていることを踏まえ、1者入札かつ落札率が71.49%となった理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。

(2) 設計・コンサルティング業務
一般競争入札方式

【浜松医科大学環境整備（法面安全対策）（V期）設計業務】

・特定の業者のみが参加可能となるような限定的な競争参加資格や仕様とならないよう留意し、業者が入札参加の検討や積算、技術者・資材等の確保を十分に行えるよう、可能な限り早期に入札公告を行うとともに、施工条件や事業者の準備期間を考慮した無理のない工期を設定しているほか、発注時期が特定の時期に集中しないよう、可能な範囲で平準化を図ることに留意し、自治体等の公共工事の発注・契約が集中する繁忙期を可能な限り避けて発注するよう努めている。

・落札者から、電材業者と長年にわたり良好な取引関係を築いていることに加え、同時期に同種工事を受注しており、照明器具等を一括して調達することで、安価に材料を仕入れることが可能であったとの説明を受けている。低入札価格調査では、同社は同種の公共工事を元請として複数回施工した実績を有し、本学における電気設備工事の施工実績もあること、資材調達及び労務者の確保に問題がないこと経営状況及び信用状況にも特段の問題が認められないことを確認した。

・一括調達できる業者がタイミングよく参加できれば低い金額での応札が期待できるが、参加できない場合は不落となるおそれがあるため、状況を慎重に見極めて対応したい。

・競争参加資格確認申請の段階では4者から申請があったが、1者については同種工事の実績を証明する書類の提出がなかったため競争参加資格を有しないものとし、配置予定技術者の確保が困難であることを理由に2者が辞退したため結果として1者入札となった。低い落札率となった理由は、工事費に占める建具等の材料費の割合が比較的高く、資材の調達価格が入札価格に影響しやすい工事であったことが一因と考えている。

・コンサルティング業務であるにもかかわらず落札率が 53.83%と低い理由についてご説明いただきたい。 ・契約の相手方は北海道の業者だが問題はないか。	・落札者は過年度に実施した法面安全対策に係る設計業務においても落札実績があり、本学構内の法面の状況、過年度の設計内容、設計条件及び成果品作成の進め方について一定の知見を有していたものと考えられ、過年度業務で得た知見やノウハウを活用することにより、令和6年度と同額の入札価格でも履行可能であると判断したものと考えられる。 ・磐田市に営業所がある。
⑤三重大学 (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） ・競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。 【三重大学(上浜)工学部6号館感覚情報実験室等改修工事】 ・入札回数が8回に及び、最終的に落札率が99.89%となった理由について、ご説明いただきたい。 ・入札に2者辞退している理由と予定価格が低かったという認識はあるか。 【三重大学(上浜)総合研究棟ⅡA棟外壁改修工事】 ・5者による入札で1回で落札に至っている一方、外壁改修は本来安価に施工できない工種でありながら落札率が46.63%と低い理由について、ご説明いただきたい。 ・低入札価格調査の実施概要の1(2)にある「下請業者の協力を得て良質な施工が可能である。」が	・技術者の専任を要する案件において、同一団地内で契約工期が重複する複数の請負工事について同一工事として取り扱うことで、兼務を認めている。また、入札の参加条件として、地域要件を定めず広域参加を可能とし、参加が少ないと想定される場合は、案件ごとに実績要件・発注方式等の見直しを行っている。 ・入札の過程で最低額提示者が僅差で入れ替わるなど双方に受注意欲が認められ、競争性が継続している状況であったため、双方が応札を継続している段階で入札を打ち切り、不落随意契約へ移行することは適当ではないと判断した。その後、応札者が1者辞退した後も、残る1者が金額を刻みながら応札を継続しており、予定価格内での落札に至る可能性が残っていたことから入札手続きを継続した結果、競争入札手続きの中で予定価格内の応札があり、落札率99.89%で落札者を決定した。 ・辞退した理由については確認していない。1回目の入札価格と予定価格との乖離は小さく（約6%）、予定価格が低かったという認識はない。 ・協力会社との長年の関係性により複数案件を通じた材料調達で調達コストを低減できること、自社施工による無駄のない人員配置により労務費を抑制できることに低価格の理由を確認した。

「自社施工による」と矛盾しているのではないか。 ・「自社施工による無駄のない人員配置により労務費を抑制できる」について詳細を知りたい。	・下請業者は仮設工事について請け負っており、施工については自社で行うことを確認している。 ・自社施工により、施工の進捗状況や作業量に応じた柔軟な人員配置が可能となり、人員の過不足や待機時間を防ぐことで、労務費を抑制できるものである。
(2) 設計・コンサルティング業務 一般競争入札方式 【三重大学(上浜)地域共創プラザⅡ改修設計業務】 ・落札率が 35.59%と極めて低い理由及び低入札価格調査を実施していない理由、また、低入札価格調査の適用基準（金額のライン）について、ご説明いただきたい。 ・施設を使用する教職員の満足度を上げるためにはプロポーザル方式を適用することが考えられたがどのような理由で最低価格落札方式としたのか。	・本業務は、比較的小規模であり、特に高度な提案や創造性を特に求める業務でないため、プロポーザル方式ではなく一般競争入札による最低価格落札方式を採用した。また、低入札価格調査は設計業務には適用していないが、非常に低い落札率であったため、開札後に事情聴取を行った結果、業務内容の認識に相違はなく受注者側の受注量や実績確保を含む経営判断が価格設定に反映されたものであった。 ・プロポーザル方式によって事業者から新たな提案を求めるのではなく、大学側があらかじめ示した条件や整備イメージを業務の中で実現するよう考えていた。一方で、結果として落札価格金額が想定を大きく下回る水準となったことから、今後は発注内容や求める成果に応じて、プロポーザル方式と最低価格落札方式のどちらが適切かを整理する予定である。
⑥豊橋技術科学大学 (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事） ・競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。 ・近隣大学への照会は国立大学への照会だけでなく公立大学や私立大学へも行ってはどうか。 【IRES2－4棟カメラ設備他改修電気設備工事】	・取組として、簡易見積合わせの参加業者への呼びかけや近隣大学への照会を行っている。実績として、近隣大学からの情報によって呼びかけた電気工事業者 3 社が、管工事業者 1 社が、近年の入札への参加および落札をしている。 ・近隣に規模の小さい私立大学があるので、確認してもよいかもしれない。

・「I R E S 2－4 棟カメラ設備他改修電気設備工事」入札者が2者でいずれも低入札となり、落札率が 59.17%と低水準となっている理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。

・低入札調査議事録の経営状態や信用状態について「公表しないこととする」とあるが、前回は指摘したとおり、調査を実施したのであれば結果を記載すべきではないか。

【電話交換機更新工事】

・「電話交換機更新工事」更新前の工事が今回とは異なる業者により施工されていることを踏まえ、1者入札かつ落札率が 42.30%と低水準となった理由について、ご説明いただきたい。

・今回の電話交換機更新は従来型の設備であるか。

【生活廃水処理施設硝化槽液中膜等修繕他工事】

・「生活廃水処理施設硝化槽液中膜等修繕他工事」落札率が 49.91%と低水準となった理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。

・落札者は、長年取引のあるメーカーから機器を安価に調達できることに加え、機器の設定・調整作業を自社で実施できる体制で積算したため、予定価格との差が生じたものと考えられる。低入札価格調査においては、入札価格の積算根拠、資材の調達方法、施工体制、労務者の確保状況及び同種工事の施工実績等を確認した結果、必要な施工体制及び履行能力を有していることを確認したため、契約の内容に適合した履行が可能であると判断した。

・経営資格審査の申請書を提出させて調査しているので、今後記載する。

・複数社から資料請求はあったものの、本学の既設電話交換機が日立製であり、現在の交換機を導入した業者は電話交換機事業から撤退しており、また、入札した1者以外は他社製交換機を主に取り扱う業者であったことから、入札参加を見送ったものと考えられる。本学では電話交換機更新工事の積算実績がなかったことから、機器価格については市場価格を踏まえた査定率により積算したが、落札者は、日立製電話交換機の特約店として40年以上の取引実績があり、機器を安価に調達できること、すべて自社技術者で施工できる体制であることから、本学の予定価格との差が大きくなったものと考えられる。

・クラウドではなく従来型のものである。クラウドへ更新すると1回線数百円かかり、現在1600～1700回線有しているため費用が大きくなりすぎてしまうため、クラウドへの更新に踏み込むことができない。

・本工事の予定価格の積算では、廃水処理施設に係る機器について市場価格を踏まえた査定率により積算したが、落札者は、機器の購入先と長年の取引実績があり、機器を安価に調達できることから、本学の予定価格との差が大きくなったものと考えられる。低入札価格調査においては、入札価格の積算根拠、資材の調達方法、施工体制及び同種工事の施工実績等について確認した結果、資材を安価に調達できることに加え、必要な施工体制及び同種工事の施工実績を有していることを確認したため、契約内容に適合した履行が可能であると判断した。

⑦愛知教育大学

(1) 建設工事

一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く）

・競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が1者となる案件について、大学において1者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。

・工事をまとめて発注すると高くなるので、工事を小さく分けたり改修工事などで工事の時期を年度で分けることで、大手ではなく中堅の業者が参加できるように検討してほしい。

【愛知教育大学（大幸他）屋内体育施設等改修その他工事】

・「愛知教育大学（大幸他）屋内体育施設等改修その他工事」1者入札で不落見積回数が6回に及んだ理由について、ご説明いただきたい。

・不落随契した業者の1回目の見積金額が入札した業者の1回目の入札金額を上回っているがなぜか。

【愛知教育大学（栗林）基幹整備（電気設備）工事】

・「愛知教育大学（栗林）基幹整備（電気設備）工事」1者入札で3回の入札を要し、最終的に落札率が98.23%となった理由について、ご説明いただきたい。

・参加機会の拡大として公告期間の十分な確保や入札時期の分散等により入札参加判断に必要な検討時間を確保し、他工事との競合や繁忙期を考慮して、技術者配置や施工体制の確保が可能となる工期の設定に努めている。また、発注見通しの公表や発注概要書に具体的な工事内容を記載することで、事業者の応札判断に資する情報提供の充実を図っており、競争参加資格で求める施工実績について必要な品質確保を前提としつつ、過度な実績要件とならないよう設定している。

・わかりました。

・参加申請段階では2者の参加があり競争性は確保されていたが、入札当日に1者がシステム不具合により入札不着となったため、結果として1者入札となった。そしてこの入札参加者と見積合わせを実施したが、途中で辞退となった。そこでシステム不具合により入札不着となった者と協議し、再度見積合わせを実施した。本学の規程上、見積回数に上限は設けていないことから、適正な手続として継続したものである。

・不落随契の手続においては入札結果を公表していないため、このようなことが起きる。

・公告期間の確保や競争参加資格における施工実績要件の緩和等により参加機会の確保を図ったものの、結果として応札者は1者にとどまったものである。2回目の入札後においても、所定の手続により入札を継続することが妥当と判断し、3回目の入札において予定価格の範囲内に収まり契約に至ったものである。

・わかりました。

・ 予定価格と 1 回目の入札金額に 2 割ほど差があるので、業者が無理をして落札している可能性がある。業者にヒアリングを行うなどして次回以降の予定価格算出に生かしてほしい。 ・ 本件について 1 者入札となったが、どのような改善点が考えられるか。	・ 補正予算による工事で、予算の内示が出た直後から自前で設計し、時期も 3 月であったため、もっと多くの入札参加者を期待していたが、結果 1 者入札となった。入札に参加しやすいように工期に余裕を持たせ、他大学が入札公告を出す前に公告を出すなどしたが、3000 万円程度の工事で技術者を約 1 年拘束される点が敬遠されたのかもしれない。
(2) 設計・コンサルティング業務 簡易公募型プロポーザル方式（拡大） 【愛知教育大学（栗林（附中）他）屋内運動場等改修設計業務】 ・ 落札率が 96.2%と非常に高いが偶然か。	・ 設計業務の予定価格については、国土交通省が算定方法を公表しているため、特記仕様書等の資料を見れば業者もある程度予定価格を把握することができる。
⑧名古屋工業大学 (1) 建設工事 一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事を除く） ・ 競争入札を実施しているにもかかわらず、入札者が 1 者となる案件について、大学において 1 者入札を回避するために実施している取組や工夫があれば、ご説明いただきたい。 ・ とても良い取り組みなので他大学に展開したいが差し支えないか。 【名古屋工業大学 19 号館電灯設備改修工事】 ・ 実績評価型は落札率が高く出る傾向があるが、落札率が 58.45%と低い理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。	・ 令和 7 年度より、事前に文部科学省競争参加資格者の中から条件にあう業者をリスト化し、一般競争入札、公開見積合わせを公示する際に、参加を検討頂きたい旨のメールをその都度送付している。結果、令和 7 年度以降の工事においては、これまで契約実績のなかった新規業者の参加に繋がっており、全体的に入札者・公開見積合わせ参加者が増加している。 ・ 大丈夫です。 ・ 本学においては公告時期や工事規模、競争参加者の増加等の理由からか、実績評価型としても落札率は高くなる傾向は出ていない。落札者の低入札の理由は、長年の協力会社と連携して作業の効率化等を推進してきた事により工期及び作業人員の削減が可能であった事、長年の取引で良好な関係のある業者から資材を低廉に購入可能であった事等で、労務費は工事を夏休み期間に集中して実施することとなっていたため削減が可能であったと思われる。

【名古屋工業大学（御器所）24 号館外壁等改修工事】 ・実績評価型は落札率が高く出る傾向があるが、7 者競争で全社が低入札となっている。外壁改修は本来安価に施行できない工種でありながら落札率が 58.71%と低い理由及び低入札価格調査の内容について、ご説明いただきたい。	・ 本学においては、公告時期や工事規模、競争参加者の増加等の理由からか、実績評価型としても落札率は高くなる傾向は出ていない。本学としては公告の時期が良かったと思われること、24 号館の過去の 2 度の外壁工事でも競争参加者が 6 社、8 社と多かった為、今回の競争参加者も参加者が多数を想定して、入札額も比較的低めとなった等が考えられる。競争参加者の内訳書を見ると、共通費については、ほとんどが予定価格の半分以上で計上しているの、この点で企業努力をされていると思われる。低入札調査における落札者の低入札の理由は、自社職人の育成及び材料コストの縮減、自社施工、多くの工事を実施している事により資材を低廉に購入可能等、であった。
【名古屋工業大学（御器所）52・53 号館 E 棟屋上防水改修工事】 ・ 落札率は約 54.86%と低水準であるが、低入札価格調査の基準価格を下回っていないため、調査は実施されていない。このため、当該契約の履行において品質上の問題が生じていないかについて、ご説明いただきたい。あわせて、予定価格の積算についてご説明いただきたい。 ・ 今後も低入札価格調査を実施しない入札であっても、過度に低い金額で落札した場合は、品質が確保されているかなどを確認するようにしてほしい。	・ 契約の履行において、工事着工時に提出された施工要領書の中に、使用数量計算書が含まれており、工事完了時に防水塗料の空缶の確認及び監督職員による現場完了確認を行い、品質に問題ないことを確認している。予定価格の積算方法は、専門業者（防水）3 者より見積を徴取し、最低価格の見積価格に査定率をかけて、単価に採用している。 ・ わかりました。
（次回の委員会開催について） ・ 来年度も、今年度と同様の時期での開催を予定することについて、了承いただいた。 （1 者入札を回避する方法の共有について） ・ 各大学にとって業務を遂行する上で有意義な情報であり、委員会終了後一覧表にして書面で大学間で共有することについて、了承いただいた。	